

子ども司書新聞

第3号

7月30日発行

“えがお”が大切。“NDC”も大切。



7月30日（土）、子ども司書養成講座第3回の講義が行われました。今回のテーマは「カウンターのお仕事」「レファレンスってなあに？」です。どちらも利用者の方と直接接する、図書館員にとって大事な仕事の一つです。まず初めにのりこ先生から図書館の一日の説明を受け、毎日どのような仕事をしているのかを学び、普段は開館前に行っている返却ポストの処理、棚への排架などをやりました。続いて、検索端末の使い方、検索結果の見方などを学び、本日のメイン、実際にカウンターについて返却、貸出

をやりました。時間の都合上、全員が貸出を体験することはできませんでしたが、笑顔でがんばってくれました。後半は、レファレンスについて学びました。レファレンスサービスは本がどこにあるのか、どうやって探せばよいのかなどを教えてくれるサービスです。レファレンスの練習問題の宿題が出ました。インターネットを使わずにどうやって調べてくるのか、楽しみです。

レファレンスサービスって？

「レファレンスサービス」とは「調べていることがらについて、たくさんある情報のなかから必要な情報をえらび、信頼できるかどうかを判断するてつたいをするサービス」のことです（「図書館のすべてがわかる本」第2巻より）。もし図書館に求める資料がなくても、他の図書館から取り寄せることができる場合もある（相互貸借）ので、あきらめる前に職員に一言相談してみては？

第4回 9月17日

本ができるまで
本を作ってみよう

宿題が出ています

レファレンスについて宿題が出ています。**インターネットを使わずに、次回までに調べてきてください。**



<編集後記>

担当：しも

第3回は図書館サービスの中でも皆さんの目に触れる、利用する仕事について学びました。「おにいちゃんかっこいいね」なんて声もきこえてきて、うれしかったです。